

第14回図書館総合展
特別フォーラム



子ども大学かわごえの革新



平成24年11月22日

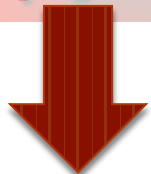
NPO法人子ども大学かわごえ
理事長 酒井一郎

一に教育、二に教育、三に教育

- キャッチアップ型教育
- 模倣・暗記・つめこみ
- 失われた20年



● **教育改革**



- 先進国型教育
- 創造と思考中心
- 未来志向的教育



教育改革の一案

- **ドイツの子ども大学**
 - 2002年に誕生
- **子どもが感じる疑問**
 - 根源的「なぜ？」
 - 自然現象
 - 社会現象など
- **大学教授**
 - 知的好奇心に応えて
 - 大学レベルの課題を
 - やさしく教え
 - 学問する楽しさを
 - 学ばせる





子ども大学かわごえ (CUK)

- 学生
 - 川越や鶴ヶ島近郊の小学生
 - 4年～6年生を対象
- 教員
 - 大学教授
東京国際大学、尚美学園大学、東洋大
その他の大学の教授
 - 一流実務専門家
- 教室
 - 川越の3大学
 - 大学レベルの課題
 - やさしく教え、学ぶ楽しさを体験

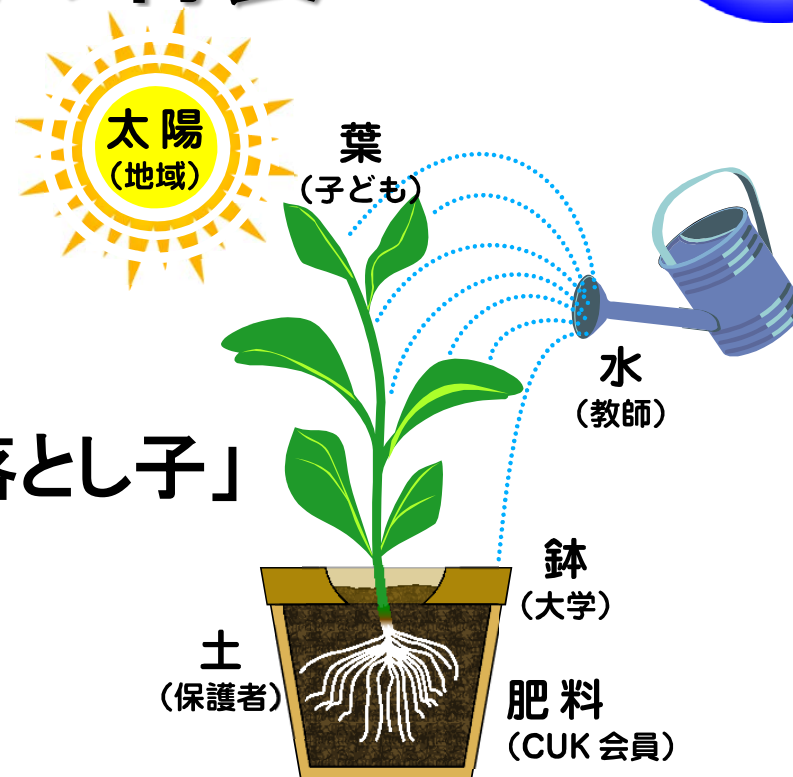
2008年12月
川越で誕生



2009年3月
開校

子ども大学かわごえの特長

- ①未来志向型考える教育
- ②わが国初の子ども大学
- ③川越市民がつくった
「市民立」大学、「地域の落とし子」
- ④教育の3本柱
「はてな学」
「生き方学」
「ふるさと学」



子ども大学かわごえ (CUK) は
みんなで子どもを育てるしくみです。



子ども大学かわごえを支えるスタッフ

- 理事長 酒井一郎(早稲田大学特別研究員)
- 学長 遠藤克弥(東京国際大学副学長)
- 理事 望月 修(東洋大学工学部教授)
- 理事 矢倉泰久(教育ジャーナリスト)
- 理事 石井成人(昭和工業(株)社長)
- 理事 齊藤信子(元川越市教育委員長)
- 理事 糸原恒久(蓮馨寺住職)
- 役員 & 会員 68名
全員がボランティアで各自専門技術を駆使
紹介誌、校歌、校旗、WEB、ポスターなど



授業活動

1. 正規授業

月に1回土曜日の午後2～4時、50分
授業2コマ 現在まで36回の授業実施
述べ出席者数

子ども 3119人 保護者 1050人



2. 特別授業

「なぜ飛行機は空を飛ぶことができるか」のワークショップ
や「ものづくり教室」など11回実施、1402人の子どもが参
加。「ミニかわごえ」こどものまち学園祭では1221人の子
どもが参加。

子ども大学かわごえ(授業風景)



子ども大学かわごえ（教授陣）



子ども大学かわごえ(イベント)

ミニかわごえ



ものづくり教室



実施した正規授業のタイトル

- なぜ飛行機は空を飛ぶことができるか？
- なぜ人の命を奪ってはいけないか？
- なぜ多数決で決めるのか？
- なぜハチの巣は六角形か？
- なぜ世界地図は同じではないのか？
- 異文化コミュニケーションを楽しもう！
- オリンピック聖火ランナーのヒミツ？
- おカネはどこから来てどこへ行くのか？
- なぜ電車の席はすみから埋まるのか？
- なぜ世界には豊かな国と貧しい国があるのか？



飛行機授業のクイズ

質問： なぜコンドルの頭は禿げているか？

- 回答：
- ①風を切って飛ぶのに気持がよいから
 - ②格好がよいから
 - ③頭を洗うのが面倒だから
 - ④体のバランスを取るのによいから
 - ⑤髪の毛が目に入らないから



子ども(学生)の感想

- 学校では聞けない話がたくさん、とても面白い。
- 新しいことを一杯知った。
- もっといろいろな話を聞きたい。
- この世界は、不思議で一杯なんだなあ・・・。
- あたりまえのことはない！と思った。
- 教室の雰囲気が大学らしくていい気分だった。



保護者の感想

- 小学校では教えない新しいことが沢山出てきて、子どもが後で辞書やインターネットで調べるようになった。
- 授業を受けた結果、何事に対してもよく考え、質問するようになった。
- 自分の興味のないことには関わろうとしなかったが、何事にも食いついてみるという姿勢が出てきた。
- 授業で一緒に聞いたことを後で親子で話し合うのが習慣になった。



学園祭「ミニかわごえ」こどものまち

- 子ども大学「生き方学」の社会体験版
- 子ども(小学生～高校生)が主役になって自立的にまちづくりをし
- 労働と消費の職業活動の体験をする
- 大人は舞台づくりをして、子どもの活動を支援する
- ドイツ「ミニ・ミュンヘン」こどものまちの理念と方法を参考に開催

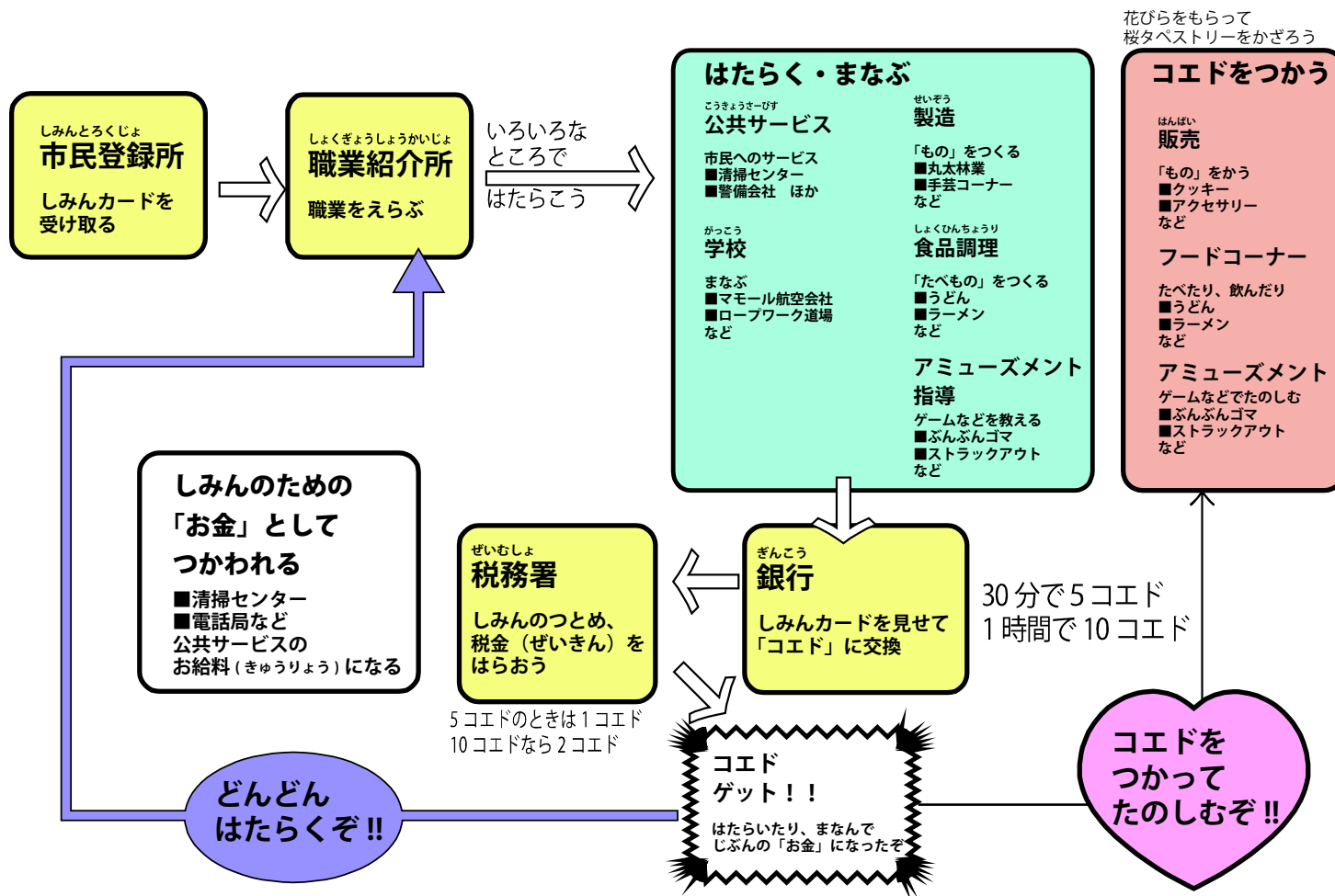


「ミニかわごえ2011」

- ×開催日時 24年3月10日(土)+11日(日)
午前10時~午後4時
- ×会場 川越市内蓮馨寺境内
- ×こども市民 小中学校生から高校生
- ×まちの構成 ものづくり区+公共区+消費区 合計約70店舗
- ×入場料 500円/日
- ×地域通貨 まちの中では“コエド”のみ流通
1時間の労働の報酬 = 10コエド
10コエドに対する税金 = 2コエド



「ミニかわごえ」の仕組み



「ミニかわごえ」の成果(1)

×来場者

子どもー小学生 1220人／2日

中高生 150人／2日

おとな(含大学生) 930人／2日

合計 2300人／2日

×まちづくり協力者

ジュニアスタッフ 70人

大人サポーター100人



「ミニかわごえ」の成果(2)

● 満足度調査

① 子どもたち(ビジター)の満足度

- ・ひじょうに楽しかった 64%
- ・楽しかった 35%

② ジュニアスタッフの満足度

③ 大人スタッフの満足度

測定方法: アンケートとインタビュー

「ミニかわごえ」の成果(3)

●子ども(小学生)

- ①自発性・自律性の発揮
- ②職業意識の目ざめ
- ③まちづくり&ものづくりの喜び
- ④他人との交流・コミュニケーション
- ⑤創発性(知的開発)

「ミニかわごえ」の成果(4)

- 中高生

- ①(小学生へ)教える喜びの体験
- ②ボランティア精神による実践
- ③小学生との世代間交流

- おとな

- ①子どもたちの積極的
活動への驚き
- ②子ども・青少年との世代間交流





CUK事業活動の推移

年度	収支合計	伸び率%	学生数	伸び率%	会員数	伸び率%
20	1, 230	—	116	—	15	—
21	1, 843	50	100	-14	35	133
22	3, 023	64	172	72	55	57
23	3, 749	24	183	6	57	4
24	6, 482	73	184	0	68	19

CUK事業活動(NPO大賞)

平成23年1月



埼玉県NPO大賞2010

公開プレゼンテーションの対象団体 (50音順)

科学映像館支える会

(デジタル化により甦らせた昭和の科学映像の配信)

子ども大学かわごえ

(子どもの知的好奇心に応える人生の夢を育む教育)

彩SITA

(シニア向け地域密着型のパソコン講習)

彩星学舎

(不登校の子どもや青年のフリースクール)

秩父の環境を考える会

(森林、河川、里山再生などの実践)

聴導犬普及協会

(聴導犬の育成と普及)

ときがわ山里文化研究所

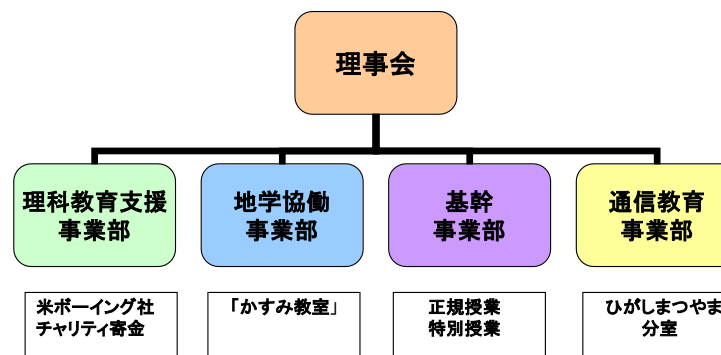
(都市と山村の交流による山里文化の再生、継承)

ほっとポット

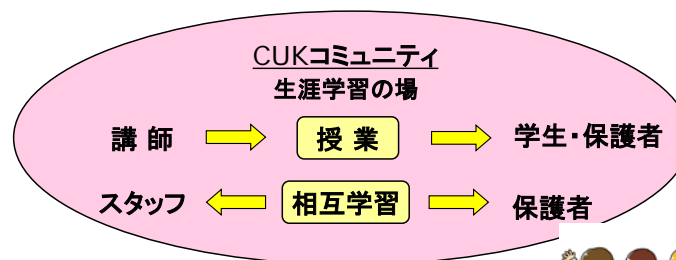
(ホームレスや生活困窮者への支援)

子ども大学かわごえは優秀賞を受賞！

CUK経営活動(事業部制)



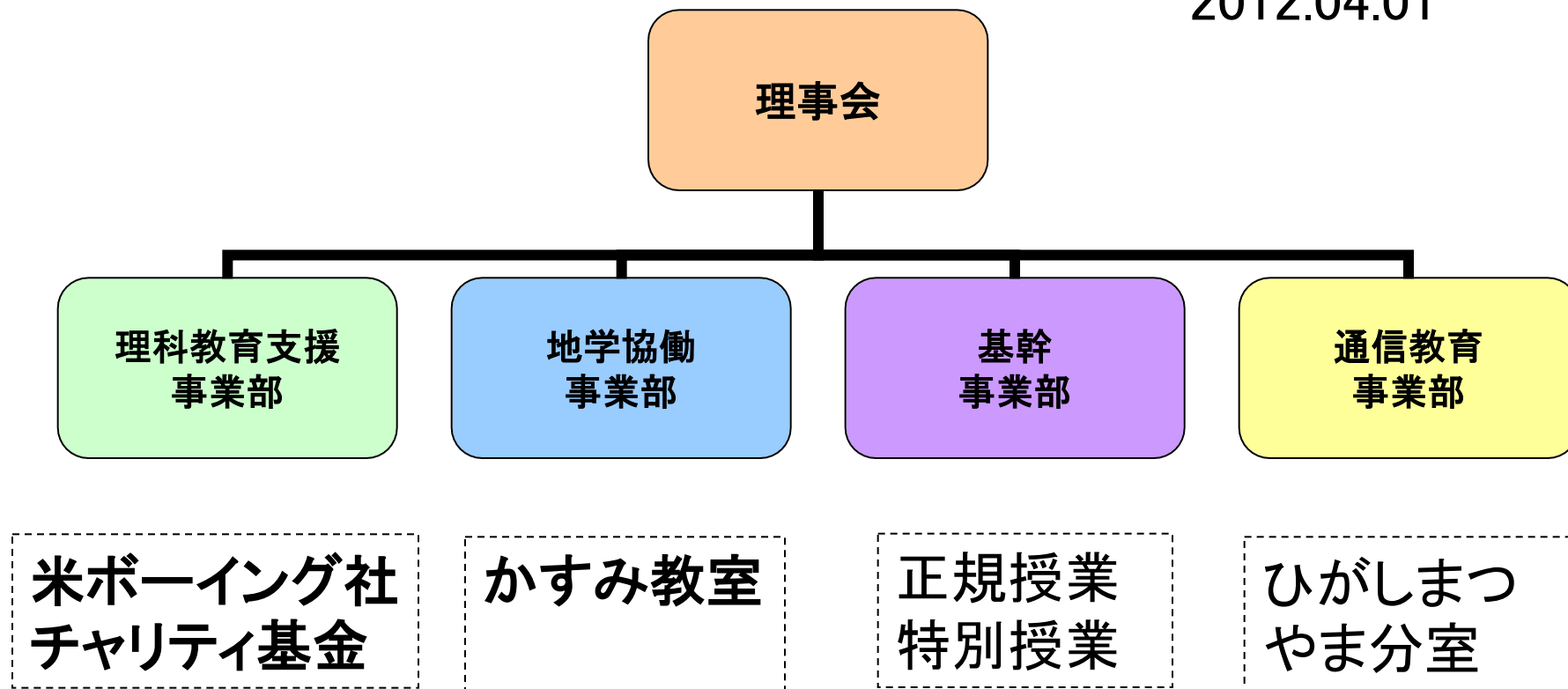
1. 「かすみ教室」
川越市自治会連合会霞ヶ関北支部と子ども大学かわごえ(CUK)との地学協働事業
2. 「ひがしまつやま分室」
東松山市学童保育の会との学学協働事業
3. 米ボーイング社チャリティ寄金
ボーイング社寄金を活用して東洋大学工学部、川越市教育センター、川越市立川越第一小学校等との協働で初等理科教育を支援





CUK事業部制(2)

2012.04.01





CUK事業部制(3)

- 1. 「かすみ教室」

川越市自治会連合会霞ヶ関北支部と子ども大学かわごえ(CUK)との地学協働事業

- 2. 「ひがしまつやま分室」

東松山市学童保育の会との間に遠隔授業実施予定

- 3. 米ボーイング社チャリティ寄金

ボーイング社寄金を活用して東洋大学理工学部、川越市教育センター、川越市立川越第一小学校等と協働で小中学校理科教育を支援



子ども大学普及活動

わが国におけるCUK型子ども大学の普及と
教育改革に努める

- ①埼玉県内に約20校の子ども大学が開校
- ②鎌倉、群馬、栃木にも子ども大学が発足
- ③CUK冊子発行による宣伝活動
- ④講演等を通じた積極的広報活動
- ⑤国際活動の展開

ドイツ子ども大学ゲッチンゲンとの交流





今後の展開

1. 子ども大学新聞の発行
2. 部活の奨励 音楽部、囲碁クラブなど
3. CUK授業を通じた教授法(FD=ファカルティ・ディベロップメント)の研究開発
4. 通信教育事業部のIT化
第1ステップ CUK本校と東松山教室の連結
第2ステップ～
5. CUKのDNAとなった「革新」志向を原動力に学生・保護者の協力のもと持続的発展をめざす。

最後に

子ども大学の卒業生から
将来ノーベル賞受賞者が
出ることを期待!!

